

2020年2月16日(日)朝10:10～ 主の降誕節第8、自由交歓会等
2月第3共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題: **すべてのことは、父から任せられている** (24節)

聖書: マタイ 11章25～27節

<口語訳>

新約聖書17～ 頁

マタイ 11章25～27節

<新共同訳>

新約聖書20～21頁

マタイ 11章25～27節

<新改訳第3版>

新約聖書21～ 頁

マタイ 11章25～27節

<塚本訳>

新約聖書99～ 頁

主題: 主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。**

◇**マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。**

◇**本日のマタイ11:25～27は、神の御子イエス・キリスト様のわざを理解できないユダヤ人指導者を「賢い人・知恵者」に譬え、弟子たち、主に聴き従う人々を「幼児」に譬え、神の秘密(神の奥義)は、「幼児」の方が理解していると、皮肉で主は語っています。**

⇒主は、「**天の国は、激しく襲われている**」(12) (**「天の国を人々が、熱心に求めている**」)と、語られた時も、皮肉があり、「**賢い人・知恵者**」ではない農民、漁民、取税人たちが、**天の国・神の義**に突入して真理を熱心に求めていると、語られたのです。

⇒**「すべてのことは、父から任せられている** (24節)」と、言い、さらに「**子(神の御子イエス・キリスト様)**と子が示そうと思う者(弟子たち、主を慕う人々)」に**神の真理**は、任されていると。

本論；

◇本日、**マタイ書11章25～27節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ11章25～27節**；**使徒マタイ**は、**神の御子イエス・キリスト様**が、**神の秘密(神の奥義)**を悟らない**ユダヤ人**を「**賢い人・知恵者**」に譬え、「**幼児**」に譬えた**漁師、農民、取税人出身の弟子**たちが**神の秘密(神の奥義)**を悟り、**神に聴き従っている**と、皮肉り、「**すべてのことは、父から任せられている(24節)**」と、**神の知恵**の正しいことを示し、語りました。

◇**11:25～27節**；**塚本訳◆イエスの讚美**

「25 その時イエスは声をはげまして言われた、
「**天地の主なるお父様、(神の国の秘密に関する)これらのことを(この世の)賢い人、知恵者に隠して、幼児(のような人たち)にあらわされたことを、讚美いたします。**

26 **ほんとうに、お父様、そうなるのがあなたの御心でした。**

27 **——(知恵も力も、その他)一切のものが父上からわたしに任せられた。父上のほかに、子(であるわたし)を知る者は一人もなく、また、**

子と、子が(父上を)あらわしてやる者とのほかに、父上を知る者は一人もない。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ11:25~27節** ;「その時イエスは声をはげまして言われた、「天地の主なるお父様、(神の国の秘密に関する)これらのことを(この世の)賢い人、知恵者に隠して、幼児(のような人たち)にあらわされたことを、讚美いたします(25)」、「ほんとうに、お父様、そうなるのがあなたの御心でした(26)」、「一(知恵も力も、その他)一切のものが父上からわたしに任せられた。父上のほかに、子(であるわたし)を知る者は一人もなく、また、子と、子が(父上を)あらわしてやる者とのほかに、父上を知る者は一人もない(27)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「**父なる神**」を「讚美しておられます」。

◇**11:25節** ;「**讚美**」は、第一義的には、「全面的に同意する」、「全面的に承諾する」の意で、「**父なる神**」への主の全面的信頼・信仰告白です。

◆主の「**讚美**」の理由は、①弟子たちの**神信仰**です。次に、②**父なる神**と**御子イエス・キリスト様**の弟子たちへの信頼があることです。

⇒弟子の主への信頼は、大きかったのです。

◆弟子たちの**神信仰**は、深いものでした。

⇒弟子たちの**神信仰**は、裏切りなどがあり、決して揺るぎのないものではありませんでした。

⇒併し、**御子イエス・キリスト様**への信頼は、確かなものでした。それは、弟子たちが立派だったのではなく、主が傍にいて励まして下さったからです。

⇒使徒パウロは、ガラテヤ2:20で、「20 わたしはもはや生きていない。キリストがわたしの中に生きておられる。いまわたしが肉体で生きるのは、わたしを愛し、このわたしのために自分をすてられた神の子を信ずる信仰によって生きているのである。」と、アンテオケで、仲間のペテロやバルナバが、**ユダヤ人のプライド**ゆえの偽善の行動に走ったときに、パウロ自身が、ステパノの殉教の時、石を投げ受けた人々の服の番をしていたことを決して忘れず、偽善を訴えつつも、**神信仰**に生きるよう励ました。

⇒ダマスコ途上で、生ける主がご自身を現し、なぜわたしを迫害するのかと問いかけて、目を主に打たれていたのに、アナニアが祈ってくれたことを決して忘れませんでした。

◆主の「**讚美**」の本質は、主の『「**天地の主なるお父様、(神の国の秘密に関する)これらのことを(この世の)賢い人、知恵者に隠して、幼児(のような人たち)にあらわされたこと**』を告白(**讚美**)されたときです。

⇒「**天地の主なる お父様**」という表現は、**マタイ福音書**では、初めてだそうですが(**SY師**)、「**十字架の死**」を背負う決心を告白されたのです。

⇒主の**讚美**も、教会の**讚美**も、**神信仰の告白**を(犠牲の)土台として忘れていることを忘れてはいけません。

⇒主の「**讚美**」は、「**神の民・教会**」に対する「**御子イエス・キリスト様**」の信頼で、「子(**御子イエス・キリスト様**)が(父上を)あらわしてやる者(**神の民・教会**)」という表現で表されています。

⇒「**すべてのことは、父から任せられている(24節)**」と、**父なる神の全幅の信頼**を受けて、**御子イエス・キリスト様**は、**十字架の死**による**贖い**を目指し、弟子たちにも、**罪の赦しの十字架**を背負えと、その荷は軽いと語られました。それは、主が罪ごと背負って下さるからです。主の「**讚美**」に唱和しつつ歩みます。

結論；

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。

◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。

◇本日の**マタイ11:25～27**は、**神の御子イエス・キリスト様**のわざを理解できない**ユダヤ人指導者**を「**賢い人・知恵者**」に譬え、**弟子たち、主に聴き従う人々**を「**幼児**」に譬え、**神の秘密(神の奥義)**は、「**幼児**」の方が理解していると、皮肉で主は語っています。

⇒主は、「**天の国は、激しく襲われている**」(12)「**天の国を人々が、熱心に求めている**」)と、語られた時も、皮肉があり、「**賢い人・知恵者**」ではない農民、漁民、取税人たちが、**天の国・神の義**に突入して真理を熱心に求めていると、語られたのです。

⇒「**すべてのことは、父から任せられている**(24節)」と、言い、さらに「**子(神の御子イエス・キリスト様)**と子が示そうと思う者(弟子たち、主を慕う人々)」に**神の真理**は、任されていると。

◇「**天の国は、激しく襲われている**」(12) (「**天の国を人々が、が熱心に求めている**」)と、主は語り、自ら**十字架の死**を**天の国・神の義**へ突入されました。

⇒主に聴き従う弟子たち仲間には、**十字架の死**を目の前にしても、裏切り者のペテロに自愛の目を向け、イスカリオテのユダには、悔い改めの機会を残して下さったのです。

⇒「**すべてのことは、父から任せられている** (24節)」と、弟子とした者を最後までいのちを賭けて守って下さいます。

⇒ガラテヤ2:20;塚本訳

20 わたしはもはや生きていない。キリストがわたしの中に生きておられる。いまわたしが肉体で生きるのは、わたしを愛し、このわたしのために自分をすてられた神の子を信ずる信仰によって生きているのである。